

BESSHI 住友別子病院広報誌

SMILE

2026.05
Vol.217



特集：地域で支える呼吸器医療

＼2026年4月体制強化!／

呼吸が気になるあなたへ

せき・息切れ・喘息症状… そのままにしていますか？

愛媛大学大学院医学系研究科と連携し、常勤体制による診療がスタートしました。これにより、月曜日から金曜日まで毎日診療を行っています。

呼吸器内科では、幅広い呼吸器の病気に対応し、以下のようなさまざまな病気を診療しています。

- 気管支ぜんそく
- 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
- 肺炎などの感染症
- 肺がん・間質性肺炎などの難しい病気
- 非結核性抗酸菌症や肺真菌症
- その他のまれな呼吸器疾患

日常によくみられる症状から専門的な診断が必要な病気まで、幅広く対応し、地域の皆さんの健康を支えています。



上田 創 医師
日本専門医機構認定内科専門医



茅田 祐輝 医師

◆ 迅速で質の高い検査体制

診療体制の強化により、これまで結果に数日かかっていた検査の一部が、院内で迅速に実施できるようになりました。

- 間質性肺疾患の指標となる「KL-6」検査
→ 約1時間以内で結果が判明
- 呼気一酸化窒素 (FeNO) 検査
→ 咳や喘息の診断に有用

より早く、より正確な診断につなげています。専門的な検査も開始しています。

- 気管支ぜんそくや慢性閉塞性肺疾患の診断に必要な呼吸機能検査
- 間質性肺炎のフォローに必要な特殊肺機能検査、6分間歩行試験
- 肺がんの検査
- 感染症の詳しい検査

◆ 専門医による診療体制の充実

これまで主に非常勤医師による外来診療を行ってきましたが、2025年7月に、愛媛大学大学院医学系研究科と連携し、「統合呼吸器診療学講座」を開設しました。さらに2026年4月からは常勤医師2名が加わり、入院診療にも対応できる体制が整いました。

これにより、新居浜・西条地域における呼吸器の医療体制をさらに充実させ、地域の皆さんへの病気の理解や予防の普及にも取り組んでいます。

必要に応じて、愛媛大学医学部附属病院などと連携し、より高度な医療にもつなげています。

非常勤医師

大西 広志 医師〈月・火曜日〉

愛媛大学大学院医学系研究科循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座
統合呼吸器診療学講座 教授
総合内科専門医、呼吸器専門医、アレルギー専門医、気管支鏡専門医、がん治療認定医

山本 将一郎 医師〈木曜日〉

愛媛大学大学院医学系研究科循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座
特任講師(腫瘍センター)
総合内科専門医、呼吸器専門医、気管支鏡専門医、がん薬物療法専門医

市山 成彦 医師〈水曜日〉

川崎医科大学総合医療センター

地域の皆さんへ

高齢化が進む愛媛県において、呼吸器の病気は身近で重要な健康課題です。

当院では、日々の診療から得られるデータを活用し、より良い医療の提供や新しい治療の研究にも取り組んでいます。

また、将来の医療を支える専門医の育成にも力を入れ、地域全体の医療の質向上に貢献していきます。



認定看護師へ
お気軽に
ご相談ください

慢性呼吸器疾患
看護認定看護師
田中 貴大



病棟スタッフ

院内がん登録

がんセンター 横井 美由紀

2024年分の「院内がん登録」の集計結果をご報告いたします。

院内がん登録は、病院で診断、治療された全ての患者さんのがんについての情報を診療科問わず病院全体で集め、その病院のがん診療がどのように行われているかを明らかにする調査です。がん検診で見つかった患者さんが多いのか、他の病気がかかっているうちに発見された患者さんが多いのかなど受診までの経過の違いやがんの種類別の違い、あるいは手術の数が多いか少ないかなど病院のがん診療の特徴を把握するために定期的に行われています。

登録対象 入院外来を問わず、下記の期間中、新たに受診・診断・治療の対象となった腫瘍

期間 2024年1月～12月

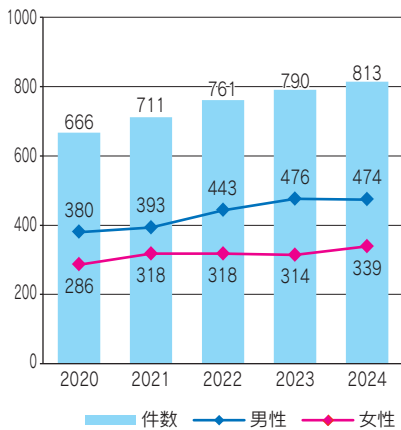
件数 全登録数821件のうち、症例区分80その他を除く
※集計対象件数：813件

※ 国立がん研究センターがん対策情報センターが実施する全国集計において症例区分80その他を除外したデータを集計対象と定義しています。症例区分80には、他施設で診断され、治療目的で紹介されたが、治療が行われず、他施設へ紹介となるようなケースの症例が分類されます。

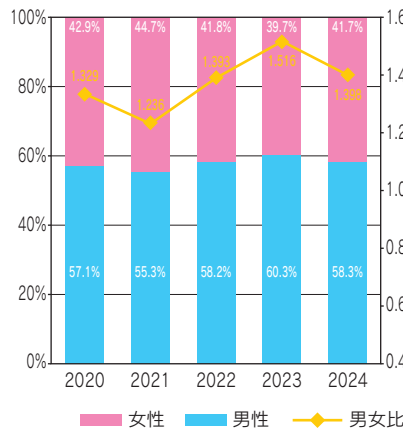
◆ がん登録件数は医療機関で診断、確認された症例数であり、がん発生数罹患数とは異なります。同一症例が他の医療機関でも重複登録される場合があります。

◆ 個人情報につきましては、法令および厚生労働省のガイドラインに基づき適正に取扱い、保護、管理を行っています。

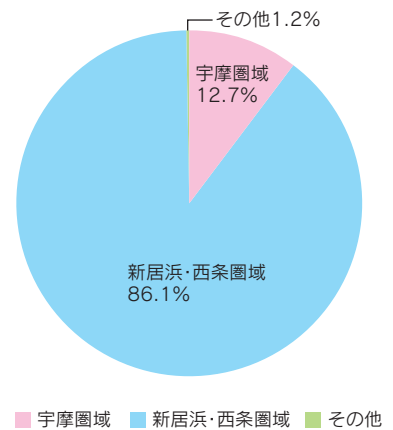
●登録数の年次推移



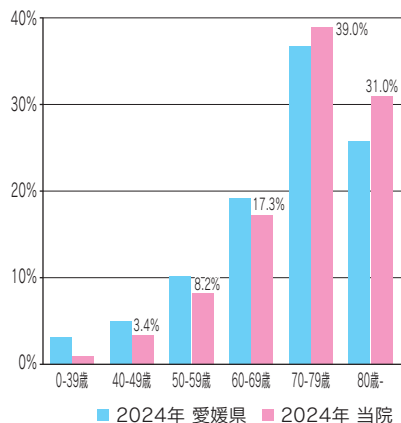
●男女比の年次推移



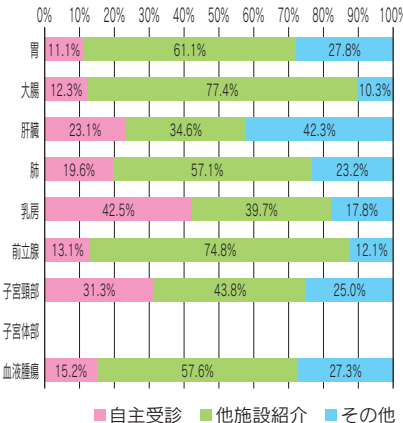
●診断時住所別の登録割合



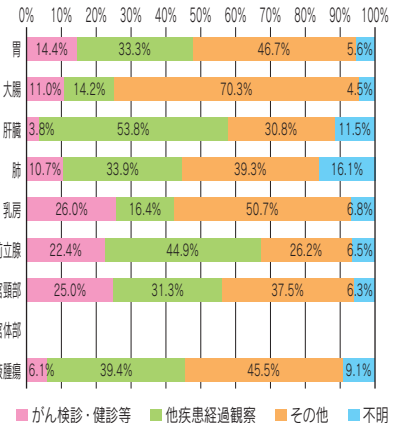
●年齢階級別の割合



●部位別来院経路



●部位別発見経緯



住友別子病院は新居浜・西条地区の中核病院としての役割を担っており、2005年に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けてからは、がん登録を開始するとともにがん診療体制を整備してきました。2018年には新病院への建て替えを機に、PET-CT新規導入、放射線治療機器の高精度上位機種への更新、IVR-CT導入、手術支援ロボットの導入などの設備更新を行い、高度ながん診療を提供できるようにいたしました。

また、薬物療法を行う外来化学療法室の充実や治療面の整備、緩和ケア病床の新設や在宅緩和診療における地域連携の構築など、がん診療全般にわたる多様なニーズにこたえられるように取り組んでおります。

院内がん登録件数は年々増加しており、2024年症例は、813件と過去5年間で最大となりました。部位別でみると大腸の登録数が最も多く、前立腺、胃と続きます。他施設診断・他施設治療例が増加傾向を示しており、当院のがん治療に関して近隣医療

機関から一定の評価をいただいているものと思われませんが、常勤医の不足している乳房・血液といった診療科の拡充が望まれます。

年齢階級別の割合では、70歳以上の割合が右肩上がりになって高くなっています。70歳以上の登録割合は、全国平均や愛媛県平均と比べても顕著に高く、高齢化している当地域では今後もこの傾向は継続するものと予測されます。

来院経路としては、他施設からの紹介が顕著な増加傾向にあります。この傾向が今後も続くように、信頼できるがん診療を提供したいと思います。

当院は愛媛県東部エリアの地域がん診療連携病院として、近隣地域のがん診療レベルの均てん化に努める責務があります。当院で対応できる診療科とそうでない診療科があり、対応できる診療科の充足が大きな課題です。全国的に医師不足が続いている現状ではありますが、中長期的な視点でこれからも整備を進めてゆく予定です。

(副院長 松原 稔)

● 部位別の登録数(10未満は、幅を持たせた表記としています)

2024年症例の部位別登録数上位5部位は、大腸(155)、前立腺(107)、胃(90)、乳房(73)、肺(56)

診断年	2020年		2021年		2022年		2023年		2024年	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
口腔・咽頭	(7～9)	-	(7～9)	-	13	1.7%	(7～9)	-	14	1.7%
食道	14	2.1%	19	2.7%	15	2.0%	15	1.9%	15	1.8%
胃	81	12.2%	94	13.2%	77	10.1%	91	11.5%	90	11.1%
結腸	78	11.7%	59	8.3%	65	8.5%	85	10.8%	94	11.6%
直腸	40	6.0%	53	7.5%	52	6.8%	50	6.3%	61	7.5%
肝臓	27	4.1%	24	3.4%	27	3.5%	30	3.8%	26	3.2%
胆嚢・胆管	(4～6)	-	(7～9)	-	15	2.0%	17	2.2%	16	2.0%
膵臓	36	5.4%	23	3.2%	34	4.5%	31	3.9%	44	5.4%
喉頭	(4～6)	-	(1～3)	-	(1～3)	-	(1～3)	-	(1～3)	-
肺	28	4.2%	38	5.3%	55	7.2%	51	6.5%	56	6.9%
骨・軟部	0	-	(1～3)	-	0	-	(1～3)	-	0	-
皮膚(黒色腫を含む)	47	7.1%	38	5.3%	49	6.4%	36	4.6%	23	2.8%
乳房	68	10.2%	98	13.8%	70	9.2%	69	8.7%	73	9.0%
子宮頸部	20	3.0%	21	3.0%	27	3.5%	24	3.0%	16	2.0%
子宮体部	11	1.7%	11	1.5%	12	1.6%	(7～9)	-	(4～6)	-
子宮	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
卵巣	(1～3)	-	(7～9)	-	(4～6)	-	10	1.3%	10	1.2%
前立腺	83	12.5%	90	12.7%	85	11.2%	111	14.1%	107	13.2%
膀胱	39	5.9%	36	5.1%	47	6.2%	42	5.3%	52	6.4%
腎・他の尿路	20	3.0%	26	3.7%	28	3.7%	27	3.4%	37	4.6%
脳・中枢神経系	(4～6)	-	(4～6)	-	(4～6)	-	(7～9)	-	(4～6)	-
甲状腺	(1～3)	-	(4～6)	-	20	2.6%	(4～6)	-	10	1.2%
悪性リンパ腫	25	3.8%	21	3.0%	26	3.4%	26	3.3%	21	2.6%
多発性骨髄腫	(1～3)	-	(1～3)	-	(4～6)	-	(1～3)	-	(4～6)	-
白血病	(1～3)	-	(4～6)	-	(7～9)	-	(7～9)	-	(1～3)	-
他の造血器腫瘍	(1～3)	-	(1～3)	-	(4～6)	-	(4～6)	-	(4～6)	-
その他	15	2.3%	13	1.8%	15	2.0%	28	3.5%	25	3.1%
合計	666		711		761		790		813	

お仕事紹介 薬剤部 PART 1

がん専門薬剤師・ 緩和薬物療法認定薬剤師

薬剤部 星加 寿子



今回から6回シリーズで、当院薬剤師が取得している専門資格とその活動内容をご紹介します。

【がん専門薬剤師】

日本医療薬学会が認定する資格で、がん薬物療法に関する高度な知識と経験を持つ薬剤師です。当院には2名在籍しています。



抗がん剤調製中

がん治療では、細胞障害性抗がん薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など、さまざまな薬が使用さ

れます。これらは高い治療効果が期待できる一方で、吐き気、白血球減少、手足のしびれ、皮膚症状、免疫関連の副作用などが現れることがあります。

がん専門薬剤師は、抗がん薬治療が安全に行われるよう、「レジメン(投与量・投与スケジュール・治療期間などを定めた治療計画)」の登録・管理や、院内における抗がん薬投与体制の構築を担っています。

また、患者さん一人ひとりに対し、吐き気を予防する薬などの支持療法も含めた説明を行い、副作用が出た際の対処方法についても丁寧にお伝えしています。治療中は医師・看護師と密に連携し、副作用の早期発見と適切な対応を行うことで、患者さんが安心して治療を継続できるよう支援しています。

第1回は「がん専門薬剤師」と「緩和薬物療法認定薬剤師」についてです。

【緩和薬物療法認定薬剤師】

日本緩和医療薬学会が認定する資格で、がんに伴うさまざまなつらい症状を和らげる薬物療法を専門とする薬剤師です。当院には3名在籍しています。



患者説明

がんの経過の中では、痛み、吐き気、息苦しさ、しびれなど、生活の質(QOL)

に影響する症状が現れることがあります。

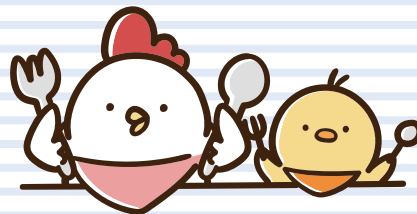
例えば痛みに対しては、アセトアミノフェンなどの鎮痛薬に加え、モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルといったオピオイド鎮痛薬を、症状に応じて使用します。

これらの薬は専門的な知識が必要とされるため、緩和薬物療法認定薬剤師は、痛みの特徴や強さだけでなく、肝臓や腎臓の機能なども考慮しながら、薬剤の選択や用量調整を行います。さらに、吐き気止めや便秘予防薬などを組み合わせ、患者さんができるだけ快適に過ごせるよう、薬物療法の面から支援しています。

当院では、抗がん薬治療や症状緩和の薬物療法を専門とする薬剤師が、医師や看護師と連携しながら患者さんの治療を支えています。

お薬について不安なことや気になることがありましたら、どうぞお気軽に薬剤師へご相談ください。

糖尿病をよく知ろう (外食時の注意点)



糖尿病センター

外食料理はエネルギー量が多く、栄養も偏りがちです。

ごはんやめんなどの主食や肉などの主菜が多く、野菜が少ない、味付けが濃い(塩分・糖分が多い)、油の使用量が多いといった問題点をよく理解した上で、メニューの選び方や食べ方を工夫するようにしましょう。



【外食のポイント】

- 一品料理ではなく、品数の多い定食を選びましょう
- 洋食や中華よりも和食を選びましょう
- 漬物は残すようにしましょう
- ゆっくりしたペースでよく噛んで食べましょう
- 栄養素の過不足は前後の食事で調整しましょう
- 食後はできるだけ身体を動かしましょう

例えばめん類を食べる時は…

- 野菜や具が多いメニューを選ぶ
 - 塩分や脂の多い汁は飲まない
 - おにぎりやチャーハンとセットにしない
- ちゃんぽん…中華めんの中ではバランスのよい1品
タンメン・五目ラーメン…具も多めでバランスはよいが、
高エネルギー
- 鍋焼きうどん…比較的多種類の野菜や肉がとれる

地域とともに育む看護のかたち

看護部 栄 洋 介

住友別子病院看護部では、医療・介護・福祉のつながりを大切にしながら、地域の皆さんのお役に立てる取り組みを行っています。

その一つとして、当院の認定看護師が講師となり、日々の業務に役立つ知識や技術、最新の情報をお伝えする「医療・介護福祉セミナー」を年2回開催しています。また、感染対策や褥瘡対策などについては、病院や施設へ出向く出前講座も行っています。



さらに今年度も、愛媛県看護協会のご協力のもと、高校生を対象とした「ふれあい看護体験」を実施します。実際に見て・触れて・体験できるコーナーを通して、看護の仕事に少しでも興味を持っていただければと考えています。

これからも地域とのつながりを大切にしながら、人材交流を深め、未来の医療を支える人材育成に取り組んでまいります。



あま〜い春を先取り♪

今年もやってきた! 大人気いちご狩り

住友別子病院労働組合



住友別子病院労働組合では、2月22日、組合行事の一環としていちご狩りを開催しました。

まだ寒さの残る時期ではありましたが、職場の同僚やご家族合わせて約180名が参加し、とてもにぎやかな1日となりました。

会場となったビニールハウスには、まっ赤に色づいたいちごがたくさん実っており、甘い香りに包まれながら、皆さん楽しそうにいちごを摘んでいました。

「いろんな品種があつて楽しい!」

「自分で採るいちごは特別おいしい!」

といった声もハウスのあちこちから聞こえてきて、笑顔いっぱいの時間となりました。

普段とは少し違う環境で、自然に触れながら楽しむことで、リフレッシュできた一日となりました。

これからも労働組合では、さまざまな活動を通じて交流を深め、職場のつながりを大切にしていきます。

新年度 新たな職員を35名迎えました!

2026年度4月、新たに計35名の職員(薬剤師2名、放射線技師2名、理学療法士1名、臨床工学技士2名、ケアアシスタント3名、看護師20名、

事務員4名、調理員1名)を採用しました。

地域医療を安定的に継続していくためには、人材の確保が極めて重要です。当院では、地域の急性期医療を担う中核病院としての役割を果たすべく、働きやすい職場環境の整備・提供に努めています。

今後も医療人材の安定的な確保を図りながら、診療機能のさらなる充実・強化に取り組んでまいります。



医育大学と連携した若手医師の育成を継続していきます

今年度新採用の基幹型初期臨床研修医3名が当院での研修を開始しました。

当院は近年、地域の中核病院としての特性を活かし、医学生および研修医教育における大学との連携・協力体制を大幅に強化し、若手医師の育成に積極的に関与しています。病院職員全体で医学生・研修医を教育し、将来的にも安定的な医師確保の基礎作りを継続し、地域医療を着実に守っていきます。

